



# 「こんにちは 市長です」 9月1日号

コンビニの片隅にある機械にお金を差し込んでスマホをかざすことを、チャージというそうだ。そのスマホをごちゃごちゃした図柄にかざすと、お金を払ったことになる。マイナンバーカードを作ったとき、私のスマホに5千円がチャージされた。喫茶店で使ってみたがなかなか具合がいい。「これは便利だ」と思いながらもお金がどうやって相手に渡するのか、お金が動くのかが見えない＝信用ならないのだ。古いんですね。だから今は使っていない。

この秋に「50%プレミアム付きのデジタル金券」(地域通貨)を発行する。コロナで落ち込んだ消費とあらゆる商品の値上げへの対応策だ。2万円で3万円の買い物ができる。従来は紙ベースの金券で発行したけどスマホにチャージでいく、と担当者は言い張る。地域通貨はスマホで決済というわけだ。総額で12億円。

「500円の金券で発行したら市役所に戻ってくる金券は240万枚になります。お言葉ですが紙ベースでは無理です」。私は紙ベースが一番信頼できると思っている古い人間だ。「チャージなんてできない市民もいる。図書カードみたいな、カードはどうなんだね」と副市長が助け舟、彼も古めな人間である。結果、2万円+1万円のカード2500枚を高齢者向けに認めてもらった。地域通貨の愛称は「OTACO」(オタコ)と名付けた。「OTACO」はこれからあちこちで動き回る。住宅リフォーム補助金、太陽光発電システム導入報奨金、さらには長寿祝金などがスマホやカードにチャージされる。古い人間から脱皮する時代に入った。

「OTACO」をもっと幅広く、市民活動を活発にするのに利用できないか、若手職員に検討をお願いした。ボランティアや町内清掃、高齢者のウォーキングでポイントゲットを検討中！！

(8/8記)